【体験版】論理による解体（前編）

■作品紹介

国内屈指のエリート内科医、麻生玲。感情を「脳内物質のノイズ」と切り捨てる彼女の前に現れたのは、謎のメディカル・アドバイザー。彼は精緻な解剖学的知見と「57センチ」という秘匿された数値を武器に、彼女の精神を内側から解体し始める。

■本編抜粋：第1話「57cmの指摘」

「……先生。君の脈拍が、先ほどから安静時を大きく逸脱して110を越えている。これは私の存在が君の恒常性を乱しているという、否定できない物理的エビデンスだと思わない？」 私はラテックス手袋を嵌めた指先で、彼女の細い手首に触れた。

「……それは、あなたが非科学的なカウンセリングを強行しようとしていることへの、正常なストレス反応です」 彼女は冷徹に言い放つが、その皮膚は熱を帯び、私の指を迎え入れるように弛緩している。

私はゆっくりと、彼女のウエストを左右から執拗に圧迫した。 「あ………………っ、そこは……神経が、密集して……」

「そう。解剖学的に言えば、ここは感情が最も敏感に現れる場所だ」 私は、彼女の虚勢を支える境界線の数値を口にする。 「58センチ。いや、実測値は57センチに収束する。解剖学的な必然だよ」

彼女の顔から一気に血の気が引く。 専門家として信頼している「数値」という概念そのもので、私は彼女を包囲した。

（この先、彼女の知性の城壁は完全に崩壊し、16センチの質量による「再定義」へと突き進みます――）

■制作に関するお知らせ

本作は、AIによる精密な医学的・解剖学的シミュレーションを物語の核に据えています。AI特有の無機質なデータ解析と、作家による情動的な演出を融合させることで、これまでにない「知性による蹂躙」を表現したハイブリッド作品です。